

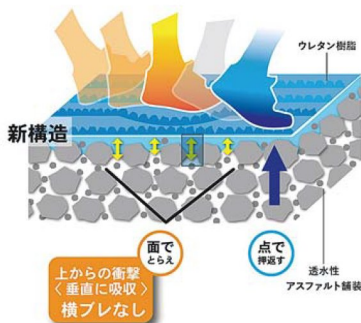
着地時の衝撃緩和

走りやすい舗装本格展開

日本道路

日本道路は健康貢献活動の一環として独自開発したランナー向け舗装「快適歩走（かいてきほそう）」を今月から本格展開する。着地時の衝撃をやわらげ、走りだす際に踏みしめやすくすることでランナーの走りやすさを向上させる。初年度は3万平方メートルの施工を目指す。新しく施工した舗装に適用できるが、今後は既設舗装への展開も視野に技術改良を目指す。

陸上競技場でエンボス層として使用されているウレタン樹脂を透水性アスコンの表面空隙（げき）部に充填（じゅうてん）し、エンボス仕上げることで、ランナーや歩行者の足腰に負担がかかりにくい構造にした。ウレタン樹脂の弾性が着地時かかるとかかる力を吸収し、下層アスファルト舗装が蹴り出す時つま先にかかると効果を舗装面に伝達する。



快適歩走の構造

適度な柔らかさがある一方で、踏みしめやすく、走りやすい点が特長。舗装後に隣接部との段差がほとんど生じないため、隣接部の舗装構成を変えずに施工できる。赤や青などさまざまな色に対応

できる。

北海道士別市で行った試験舗装のほかに、これまで順天堂大学さくらキャンパス（千葉県印西市）、青山学院大学相模原キャンパス（相模原市中央区）の2件で施工実績がある。

開発に当たっては、元マランソン走者で解説者の金哲彦氏など約80人のランナーが実際に快適歩走を走って機能などを検証することで走りやすさを追求した。金氏は「土の上を歩いているかのような気持ちよさがあ

る。公園の舗装に最適」と評価している。

国土交通省は20年度予算案で「まちなかウォークアップ推進事業」に1・5億円を新規計上しており、道路改修などを通じて歩きやすい街づくりに取り組む予定。日本道路は同事業を活用して快適歩走の適用拡大を目指す。同社の井澤克則営業本部技術営業部長は「この流れに乗り、多くの都市で快適歩走を施工したい」と意欲を見せている。